

農作物の生育状況と今後の見通し・農作業安全について(5月)

鳥取県農業気象協議会
(鳥取県農業振興局経営支援課 農業普及推進室 まとめ)
令和7年5月15日 現在

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	水稻	・育苗期間の寒暖差や強風の影響で、一部でムレ苗や葉先の黄化・萎凋が見られ、山間地において苗立枯病の発生や生育不良の他、根張り不足の事例がわずかに見られるが、全体的には順調な様子である。 ・好天が続いており、耕うん等の作業進捗は比較的順調で、八頭町船岡地区、関金町などで4月中旬から早期田植が開始されている。 ・日野郡や平坦部の移植が早い地域でも5月上旬から順次田植や直播作業が進んでおり、進捗は概ね平年並みである。田植後の強風等によって葉先の黄化が一部で見られるが、今のところ、田植以降で広域的に目立った障害は報告されていない。	・今後6月上旬にかけて田植えが行われる見込み。 ・育苗や田植え前後の栽培管理について稲作技術情報（鳥取県産米改良協会まとめ）を通じて関係機関に周知している。
	麦	・麦類の生育は、全般に概ね順調であるが、生育量が大きいほ場で一部倒伏が見られている。 ・中部地域における二条大麦は、11月中旬播種のほ場から成熟期が間近となり、穂孕み期から出穂・開花にかけての極端な低温や霜害には遭わず、部分不稔は少ない模様である。 ・網斑病がわずかに見られるが上位葉への進展は見られず、防除の徹底により現時点で赤かび病の発生も見られない。 ・小麦は、西部地域で11月中旬に播種されたほ場で4月下旬から開花期となっており、赤かび病防除や実肥作業が進行中である。 ・連作ほ場を中心にコムギ黄斑病の発生が若干見られるが、全般的には問題とならない程度に止まっている。	・二条大麦は、5月末から6月中旬頃にかけて収穫適期となる見込み。 ・赤かび病の拡大を防止するため、適期収穫を徹底する。 ・降雨時の対策として、明渠の点検を行い、収穫期までの滞水をなるべく少なくする。 ・麦作技術情報（鳥取県産米改良協会まとめ）を通じて、関係機関に適期収穫を周知していく。
	ナシ	・「二十世紀」の県下平均交配日は4月12日となり、前年及び平年と同日であるが、早場と遅場の間隔が大きかった。 ・結実は良好で、摘果作業の最中である。「二十世紀」の小袋かけ作業も行われている。 ・4月10日他に雹、アラレが降った地域があるが、摘果でキズ果を取り除くことができる。 ・5月14日の果実肥大状況調査では、「二十世紀」横径：21.4mm（前年比95％、平年比98％）、「新甘泉」横径：19.8mm（前年比88％、平年比93％）、「王秋」横径：20.3mm（前年比100％、平年比103％）であり、前年平年と同じからやや小さい。	・実止まりが良いと着果過多によって小玉果になりやすいので、適正着果とする。 ・雹・アラレが降った地域では傷などを吟味しながら摘果する。 ・気温が高い日が増えることから、根量が少ない苗木や若木には灌水を行う。 ・園芸試験場のナシ黒星病孢子飛散情報では、4月第3半月以降の病落葉からの子嚢胞子の飛散量が多い。発病した幼果や葉は取り除き、園外に持ち出し処分する。また、摘果時に発病が認められた果叢は可能な限り全摘果する。
	カキ	・摘蕾作業の最中である。 ・着蕾状況は、品種差や地域差があり平年並からやや少ないが、着果量には影響しない。 ・展葉前であったが、3月31日、4月1日の早朝の気温が低下し、霜害が発生した柿園が県西部や中部の一部にある。 ・5月9日、10日の強風により新梢が折れる被害が発生したが、収量に影響が出るほどではない。	・花の満開は、高温により生育が進み、平年並から少し早くなることが見込まれる。 ・作業性が良い摘蕾、摘花を計画的に実施し、大玉生産を目指す。 ・ケムシ、灰色カビ病等の発生に注意し、防除を行う。 ・気温が高い日が増えることから、根量が少ない苗木や若木には灌水を行う。
	ブドウ	・2月の降雪によりビニール被覆が遅れたこと等から、生育は前年よりも5日程度遅れている。 ・無加温「デラウエア」のジベレリン処理は、4月10日頃から始まり、4月20日頃がピークとなった。 ・無加温「巨峰」「ピオーネ」「シャインマスカット」は、本整形～ベレリン1回処理の最中である。	・実どまりが分かりしだい摘房を行って着房数を調整する。また、産地の生産方針に沿って摘粒を行い、車数、粒数を整える。 ・べと病等の発生に注意し、防除を行う。
果樹	すいか	【ハウス】 ・交配は、泊4/9、倉吉4/10頃から開始され、ピークは4/14～15、北栄・琴浦は4/11～12頃開始、ピークは4/14～16となった。 ・交配初期は、気温が低く推移したことから、交配後の果実肥大が緩慢となり、着果確認に日数を要した。 ・一部で菌核病、アブラムシ、ケムシの発生が見られる。 【トンネル】 ・4月24頃交配が開始された。概ね順調に着果している。	【ハウス】 ・ハウス栽培は6月上旬から収穫開始予定。 【共通】 ・炭そ病、つる枯病、ハダニ、アブラムシの発生があり防除を徹底する。
	白ねぎ	【春ねぎ】 ・収穫は終盤～概ね終了。 ・3月の気温が高めで推移したことから、抽苔は例年比、やや早い状況がみられた。 【夏ねぎ】 ・概ね順調に生育している。 ・弓浜地区では、5月上旬の強風による葉の傷みで、8～9月どりの生育の遅れが予想される。 ・4月以降、降雨が少なかったことから、ハモグリバエの発生が見られる。 【秋冬ねぎ】 ・定植は順調に進んでいる。 ・砂畑ほ場の一部では、強風による飛砂で葉の傷みが認められるほか、砂に埋没したことから掘り起こしや植え直しが必要となった。	【夏ねぎ、秋冬ねぎ】 ・梅雨前に排水対策を徹底する。 ・これまで乾燥傾向であったことや夜温が低めであったことや、6月上旬の梅雨入りに備え、ネギアザミウマ、ハモグリバエ、さび病、べと病を中心とした病虫害防除を呼び掛ける。
	ブロッコリー	【初夏どり】 ・4月下旬から出荷が開始された。 ・5月上旬の強風で、茎折れによる欠株が散見される（数％の発生）。 ・黒すす病、アブラムシ、コナガの発生がみられる。	【初夏どり】 ・出荷は5月中旬頃から増加し下旬に出荷のピークを迎える。 ・黒すす病、アブラムシ、コナガの防除を徹底する。
	らっきょう	【東部地区】 ・4/30の生育調査結果では、球重は例年より小さく、分球数は平年並みである。 ・なお、生育は冬期から回復傾向である。 ・ほ場によってはネギアザミウマ、ハモグリバエの発生がみられるが平年より発生は少ない。 【中部地区】 ・5/1の生育調査結果では、大玉系、分球系ともに球重、分球数は平年の7～8割となっている。	【東部地区】 ・初販売日は例年より遅く5/26。 【中部】 ・初販売日は関東5/22から。 ・出荷分の収穫終了後、種球ほ場においては、ネギアザミウマの防除を徹底する。
	トマト（促成）	・1段目の収穫が終了した。昨年度と比較して小玉傾向。 ・灰色かび病が発生している。	・灰色かび病対策として、病果や花柄などの除去、換気によりハウス内の除湿、防除の徹底を呼び掛ける。
	トマト（夏秋）	・育苗は気温が高く推移し、例年より1週間程度生育が早まっている。 ・圃場準備は概ね順調に進んでいる。	・苗配布は例年同期の5/15から配布され、順次定植が行われる。 ・1番花開花のものが多くなる可能性が高く、老化苗定植にならないよう適期の定植を呼び掛ける。
	ながいも	【ねばりっこ】 ・植付は、平年より5日程度早く3/31から始まり、4月が好天で推移したことから5月上旬（連休明け）に概ね終了した。ピークは平年同様の4月中下旬となった。 ・4月中に植付した圃場では平年並み（4月下旬～5月上旬）に出芽が始まった。 【長芋】 ・植付は、4月が好天で推移したことから、ほぼ平年通り（4月中旬頃～）行われており、現時点でほぼ終了。ピークは5月上旬（連休頃）。	【ねばりっこ】 ・出芽が始まった圃場から順次1回目の追肥（芽出し肥）を行う。 【長芋】 ・定植は5月中旬まで続き、出芽は早いところで6月初頭頃から始まる予定。
	いちご	・収穫最盛期で概ね順調。 ・一部でアブラムシの発生がみられる。	・5月下旬～6月上旬で収穫は終了する見込み。 ・次作の育苗管理に向けた準備が遅れないよう親株管理を行う。
	アスパラガス	・ハウス栽培は立茎管理中。 ・露地栽培は出荷中で早い場所では立茎を開始している。 ・出荷は、気温（夜温）が低めで推移しているため、例年よりやや少ない傾向。	・茎枯病の防除を徹底する。 ・過繁茂ならないよう立茎管理を行う。
	にんじん	・気温が低めで推移していることから、生育が遅れ気味である。 ・4月下旬に被覆資材が除去されたが、被覆除去後、ほ場の一部で飛砂により株の消失がみられる。	・生育が遅れていることから、出荷開始が例年より遅れる見込み。
花き	シンテツポウユリ	【盆作型】 ＜東部地区＞ ・4/25頃に定植が行われ、概ね順調に生育中。一部購入苗で葉焼けが発生したが、新葉は順調に出てきているため、今後の生育に大きな問題はない。 ＜中部地区＞ ・生産者4戸。4/10～17に定植が行われた。 ・定植後葉色が淡い圃場があることから追肥を呼びかけている。 【抑制ハウス作型】 ＜中部地区のみ＞ ・生産者7戸、品種は‘凜花EXⅡ’ ・4/10から播種・種子冷蔵を行い、4/20～5/7に出庫。1週間程度で発芽し、いずれも発芽・生育は順調。	【盆作型】 ・葉枯病の予防防除を徹底する。葉色に応じて、追肥を行う。 【抑制ハウス作型】 ＜中部地区のみ＞ ・6月の気温が平年より高い予報であることから、6月下旬（定植前）に苗冷蔵を行う予定で育苗を行う。
	りんどう	・萌芽は遅れていたが、現在は平年並みの生育となっている。	・6月20日前後に選花場開始となる見込み。
飼料	イタリアンライグラス	・一番草の収穫は概ね終了し、地域によっては5月末になる見込み。 ・低い草丈のままでも穂を迎えた圃場もあり、一番草の収量が例年の6～9割程度の見込み。	・追肥等2番草刈りに向けた準備を行う。 ・ほ場によっては一番草イタリアンライグラスの収穫後に、トウモロコシの播種準備を行う。
	飼料用トウモロコシ	・播種作業を実施中。 ・4月播きのほ場は、草丈20cm程度と順調に生育。	・播種作業は6月まで続く見込み。
その他	農作業安全	・鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会では、5月31日までを春の農作業安全運動期間に位置づけ、農業者の農作業安全に係る意識の啓発と農作業事故防止の徹底に取り組んでいる。 ・（4月15日以降）4月には梨園を乗用モアで草刈り中に突き出していた樹に頭部を強打したことによる首の骨折・頰椎損傷（入院7日間）、5月には牛舎の柵の修繕中に牛に体当たりされて脱臼、捻挫する農作業事故が発生した。 【令和7年度の農作業事故の報告事案】 畦めり機　　1件 乗用モア　　1件 牛によるもの1件 計　　　　　3件　※令和6年度中の農作業事故：15件（うち死亡事故1件）	・春の農繁期であり、一層の注意喚起や安全意識の啓発に取組み、事故防止を図る。 ・乗用の農業機械の運転ではヘルメットを着用する。 ・果樹園内の頭をぶつけそうな枝は切り落とすか突き上げ柱を入れて持ち上げる等の対策を行う。 ・畜産施設の修繕等を行う時は、牛が暴れる恐れへの対策として、牛をつなぐか、牛を移動させてから行う。 ・気温が上昇する時期であり、身体が暑さに慣れていないことから熱中症になりやすいので注意する。 【梅雨期、薬剤散布の農作業に注意】 ＊ 雨合羽を着用した農作業は特に注意（汗の発散が阻害されるため体温が上昇） ⇒ 小まめな休憩をとり、雨合羽を脱衣して体温を冷やす